

新潟大学創立60周年として時計塔と談話室の贈呈式を行いました

(平成21年6月1日)

時計塔とテーブル椅子セット

建物の耐震工事に併せ人文社会系棟の入口前にベンチを置き緑地帯とすることになりました。同窓会として創立60周年を記念し人文系3学部が未来に向かい発展する事をイメージした3本柱が空に向かう広がり時計塔をモニュメントとして寄贈しました。

時計塔の周囲には若狭太一氏(昭29経)寄贈のテーブル椅子セットを配置させて頂きました。併せて、平成11年に創立50周年記念として寄贈した日展作家 親松英治氏制作の「勝利の像」と一体化し周辺環境を整えました。

青松談話室

学生談話室はゼミの打ち合わせや授業の予習、復習など利用頻度が高いにも係らず暗く且つ冷暖房もないことから、透明パーテーションで仕切り、無線LANや空調設備を備え、又、小林直司氏(40年法卒)制作の絵画2点(青春譜及び即興曲)を展示した「青松談話室」を就学環境整備の観点から寄贈しました。

平成22年4月6日の入学式には、新しく設置した時計塔と勝利の像で校舎前の環境も整備され、又、快適な談話室で希望に燃える大勢の新入生を迎えました。



青松談話室 利用風景



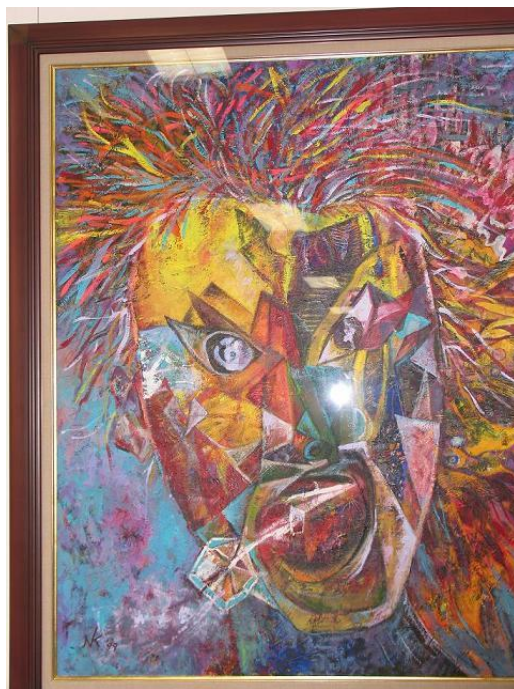
時計塔 除幕式



若狭太一氏（昭 29 経）寄贈のテーブル・椅子セット



「即興曲」



「青春譜」

作者小林直司氏の言葉 青松談話室の絵画に寄せて

「青春譜」

若者は、いつから怒らなくなったのだろう。
いつから、学生のデモやストが消えたのだろう。
青年たちよ、生きるとは喜怒哀楽の真（まこと）を知ることだ。
この絵を出品（１９９９年、新潟の県展）したときの題は
「シャバコ氏（コバヤシの逆さ読み）」であった。
今回の青松談話室展示に際し改題した。

「即興曲」

絵画は見るものである。しかし、聴くものでもある。味覚や嗅覚をも刺激する。
この絵から、あなたにはどんな曲が聞こえてくるだろうか。
激しい曲、静謐な局、心躍る曲・・・。
一枚の絵、一曲の音楽は一億人の人生を支配できるかもしれない。絵は筆で描くものではない。心で描くもの。流れる曲で描くもの。